

反改憲運動

通信 第3期

1部 200円
2008. 5. 14 No. 24

〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-1-18 近江ビル4階
Tel. & Fax. : 03-5275-5989
E-Mail : han-kaiken@alt-movements.org
Website : <http://www.alt-movements.org/han-kaiken/>
年間定期購読料 4,000円 (2007. 6~2008. 5)
郵便振替 00190-7-11558 「反改憲」運動情報通信

4・17イラク派兵違憲判決を活かし、 自衛隊を撤兵させ、派兵恒久法の成立を止めよう!!

4月17日の自衛隊イラク派兵差止訴訟控訴審判決で、名古屋高等裁判所民事第3部(青山邦夫裁判長、坪井宣幸裁判官、上杉英司裁判官)は、明確に「バグダッドは戦闘地域であり」「航空自衛隊の活動はイラク特措法第2条2項、同3条に違反、憲法9条1項に違反する」と述べた。さらに、平和的生存権についても「すべての基本的人権の基礎にあってその享有を可能ならしめる基底的権利である。単に憲法の基本的精神や理念に留まるものではない」として平和的生存権を憲法上の法的な権利として認め、憲法判断に踏み込んだ画期的な判決を下した。

判決の詳細な評価をこの紙面で書く余裕はないが、ポイントとして、イラクで起こっている具体的な状況に基づいて、特措法で言う「戦闘地域」に当たると判断を下していることが挙げられる。また、これまでの政府解釈を踏まえても航空自衛隊の活動が「武力行使と一体化」しているものであると指摘していること。この種の裁判でいつも壁になっていた「平和的生存権」が憲法上の権利として認められたことである。

防衛省に対しての情報公開請求のほとんどが不開示という状況の中で、丹念に新聞の記事を追ひ、事実関係を明らかにしてきた功績が大きい。また、平和的生存権が「基底的権利」として認められたことは、米軍再編や有事法の制定などで「平和に生きたい」という権利を侵害されている人にとって、裁判への間口が広がったと言える。

一方、この判決内容に対する政府関係者の反応は、田母神航空幕僚長の「そんなの関係ねえ」発言をはじめ、福田首相の「傍論だ。判決は国が勝った」などと一様に判決を軽視・無視するものであった。

政府関係者からのこのような発言は、法の支配を無視し、三権分立に反する暴論である。この国は、憲法を基礎に法律

が定められ、それが守られることを前提にした立憲民主主義を前提にし、権力の暴走を止めるために裁判所に違憲立法審査権を与えている。政府が憲法や法に従わなければならないのは当然であり、憲法99条で憲法尊重擁護義務を課している。そして国家賠償法上の違法性と権利侵害の要件のうち、違法性の問題として明確に違憲であることを認めている。決して「傍論」でもなく、「関係ねえ」ことはない。このような政府関係者の対応は厳しく批判されなければならない。

4月27日、「自衛隊イラク派兵差止訴訟の会」は第5回総会で、今後はこの判決を確定させ(5月2日、確定した)、さらに意義を広める中で、この秋の臨時国会にも提出されようとしている派兵恒久法の阻止と来年7月でイラク特措法が期限切れを迎える前にイラクからの撤兵を実現するまで会の活動を継続することを確認した。

そして、当面の活動として、この判決内容の意義を広めるために各地での報告会や学習会の開催を呼びかけている。また、全国的な撤兵要求の署名運動を秋の通常国会をにらんで行うことも決まった。

判決文には今後活かすことのできるものがたくさん含まれている。ぜひ判決文を丁寧に読み、各地で判決学習会・報告会を開き、活かしてほしい。

この判決を勝ち取ったのは、ひとり名古屋の訴訟の運動だけでなく、今のこのすさまじい改憲状況に対する全国の様々な反戦・不戦・反改憲運動の闘いの成果だと思う。また、開戦を止められず、この5年間悲惨な状況に追い込まれているイラクの現状がこの判決を書かせたものだとも思う。この判決を活かし、イラクからの撤兵と派兵恒久法・改憲阻止を実現させるのは私たちの今後に課せられた課題である。

(山本みはぎ/自衛隊イラク派兵差止訴訟の会)

◆人生で何度目かのメーデー体験。文字通りの老若男女。思い切り要求を掲げた自由奔放なデモ。歴史的には戦前の帝国憲法下でもメーデーは闘われていたし、敗戦後も紆余曲折を経ながら現在もメーデーを闘う人たちがいる。そういえば「朕はたらふく食ってるぞ」というのもあったか。◆思えば闘いそのものは究極的にはあまり変わっていないような気がする。はちゃめちゃさも。労働者の運動は変わっていないということ

憲 喧 嘩 愕

か? 違うだろう。黙っていても権利は維持できないということさ。◆憲法がどのように整備されても、一世紀近い昔と同じスローガンを叫ばなければならない現実はあるのだ。民主主義も基本的人権も平和も、要求し、つくりあげ、手放さない努力を続けなくては、すぐに支配者どもに奪い返されちまう。しょせん民主主義ってそんなもの。これで完了ってのがないのはつらいけど、黙っていてももっとつらいのだ。(大)

報告：4月26日◆戦争会議G8サミットと米軍再編に反対する横田行動

「こんにちのアメリカの帝国支配は日本の幕末と同じ状況におかれている」。4月26日に行われた横田行動は、武藤一羊さん（ピーブルズ・プラン研究所）のこんな印象的な言葉ではじまった。デモ出発前の基調講演において、武藤さんは「G8が目指す世界と米軍再編」についての持論を展開した。

武藤さんによれば、こんにちアメリカの軍事支配と市場原理主義は破綻をきたし、正当性を失っている。大量破壊兵器を名目にしたイラク戦争は、その根拠が完全にウソであったことがあきらかになっているし、地球温暖化問題や食糧問題などその解決のためには市場原理主義と衝突しなくてはならない。テロとの戦争という論理も、世界資本主義経済も矛盾があきらかになりつつある。

武藤さんは、こうした情勢のなかでG8の役割について言及し、G8とは何らかの問題解決を行う場ではなく、あくまでショーであり、帝国支配や資本主義社会の亀裂をとりつくり場であると述べた。そして、いまにも崩壊しそうなG8サミットの状況を日本の幕末にたとえたのであった。「わたしたちはいわば幕末の志士である。危機を迎えているG8サミットを今年の洞爺湖で終焉させよう」。武藤さんの講演は、こうした力強い言葉で結ばれた。

武藤さんの講演後、会場のさくら会館から横田基地にむけ

てデモ隊が出発した。小雨の降りしきるなか、参加者30名と人数こそ決して多くはなかったが、ひじょうに創造力を感じさせるデモであった。なんといっても目をみはったのは、デモ隊が担いでいた「パトリオット・ミサイル」である。もちろん模型だ。だが、この模型はきちんと実物大でつくられ、しかも「400億円」と値段まで記してあった。あとで聞いたところ、3,000円で作成できるこの模型には、「どうせあたらないのだから、ミサイルなんてこの模型で十分だろう」という市民の怒りが込められていたのだという。わたしは今回はじめて横田行動に参加したが、こうした奥深い所作にひじょうに強く胸をうたれた。

最後に、デモの山場としてとりくまれた横田基地への申し入れの内容を紹介しておきたい。要求は3つ。

- (1) 米空軍横田基地への航空総隊司令部の移駐計画を撤回し、「共同統合運用調整所」を廃止せよ。またミサイル防衛システムの配備を中止せよ。
- (2) 米国政府が推進する「対テロ戦争」への参加を中止せよ。
- (3) 横田基地を即時撤去せよ。これらの要求とともに、戦争会議G8サミットの解体を強く望む。

(栗原 康／ATTAC Japan 首都圏)

報告◆天皇の戦争責任を問い続ける4・29京都集会

京都「天皇制を問う」講座実行委員会をはじめとする市民・宗教団体、労働組合と、部落解放同盟京都府連と部落解放京都地方共闘会議で構成する「天皇制の強化を許さない京都実行委員会」は、京都府部落解放センターで「天皇の戦争責任を問い続ける4・29京都集会」をひらき、100人が参加した。この日が「ヒロヒト昭和天皇誕生日」、「みどりの日」、「昭和の日」と改称しながら一貫して天皇賛美の「祝日」として強要される国家のありようにたいして批判を重ねるとともに、最も近い隣国について学習を深め、共生の道をさぐった。

集会は、京都府教職員組合書記長の安藤るり子さんの司会進行で、まず同実行委員会の代表世話人である大野昭則・部落解放同盟京都府連委員長が、「『昭和』を生き抜いてきたわれわれが、若い人たちにその歴史をどう伝えていくかが大事なことだ」とあいさつした。

京都造形芸術大学客員教授の仲尾宏さんは「朝鮮通信使と天皇」と題して講演。豊臣政権の朝鮮侵略では両国間に深い亀裂が生じたが、江戸政権は朝鮮との友好を重視して大規模な使節団である「朝鮮通信使」を招いた。仲尾さんはこの往來の歴史をたどりながら、朝鮮側から見た天皇観と関白(将軍)の関係を史料から読み解き、そこにはいくらかの不整合は残しつつも日朝が対等の立場(平和・不戦)であったから

こそ友好交流が続いたことを強調した。「関白は国政総覧、天皇は世襲なれども職掌なし」と、政治の中心は関白(後も「王」と称さず「御所」「大君」などと対外呼称は変わる)、儀式と文化の中心は天皇(私としては若干、気になるが)と朝鮮側は理解してきた。しかし明治新政権はそれまでの対等な関係を無視し、「天皇」上位論を朝鮮に押付け、次々と強硬策を展開した。その後の日本の近代では朝鮮と朝鮮人にたいする偏見と蔑視感情が高まり、学校教育でもすぐ前にあった朝鮮との豊かな交流のことは意図的に消され侵略・被侵略の暗い歴史にめりつぶされてきた。そして今日も、再び朝鮮や中国にたいする誤解と偏見、そして日本と日本文化優越意識が権力とその情報操作によってはびこりはじめている。そのような時代だからこそ、200年にわたって続いた朝鮮通信使の「誠信(まこと)を通じるため」の「交隣」友好関係の実相を知り、そこから教訓を学びとることの意味は小さくないはず、と仲尾さんは述べた。

最後に、同実行委員会の代表世話人である千葉宣義牧師が、天皇誕生日がなぜ「祝日」なのかと、「国民の祝日に関する法律」を素材に昭和天皇の戦中・戦後の連続性の問題を提起し、今後も国家・天皇制のあり方を問い続けていこうと訴えた。

(寺田みちお／京都「天皇制を問う」講座実行委員会)

報告◆ 8回目の日比谷「5・3憲法集会」に4300人 憲法を使い、生かす運動をアピール

2001年の小泉政権発足直後から続いている、東京・日比谷公会堂での「5・3憲法集会」は今年で8年目を迎える。共産党と社民党の党首がともに出席して発言する憲法集会は、それまで例がなく、憲法改憲反対の共同戦線を築く上で大きな役割を果たしてきた。今年の集会も例年のように会場に入りきれない数の人びとが参加し、屋外に設置されたスクリーンで集会の様子を見ることになった。参加者は4,300人。

昨年の5・3集会は、「戦後レジームからの脱却」を掲げ「5年以内の憲法改正」に突き進もうとした安倍政権が、改憲国民投票法案を成立させていく状況の中で行われた。しかし今年は、明らかに風向きが変化している。安倍政権は参院選で大敗し、福田政権は正面から「改憲」を押し出すことができていない。1990年代以後の改憲キャンペーンを主導してきた「読売」の世論調査では15年ぶりに改憲反対が賛成を上回り、9条に限れば「改正反対」が6割以上で、ほぼダブルスコアで賛成派を上回っている。さらに4月17日の名古屋高裁判決で、自衛隊イラク派兵違憲が確定することになった。もちろん、福田政権は新テロ特措法を「衆院再議決」という苦しい手段で成立させ、海上自衛隊をインド洋・アラビア海に派遣し、さらに派兵恒久法の成立をもくろんでいる。また民主党幹部を巻き込んで「新憲法制定議員同盟」を再編し、衆参両院で憲法審査会を始動させ、改憲論議の反転攻勢をかけるこ

とをねらっている。

集会の最初のスピーチは音楽評論家の湯川れい子さん。湯川さんはフィリピンで戦死した兄が、出征の直前までジャズレコードのジャケットを描いていた思い出を語りながら、「健康は健康なうちでないと守れないように、平和は平和なうちでないと守れない。9条を変えて刀のつかに手をつけるようなことをしてはならない」と語った。元米陸軍大佐・外交官で、ブッシュのイラク戦争に抗議して辞任し、現在では女性反戦運動団体「コード・ピンク」の中心で活動しているアン・ライトさんは、「米国人は米国の憲法を、日本人は日本の憲法を守ろう。ブッシュは米国憲法に違反している。米国は武器を作り、売っている。戦争をしないモデルとなるのが日本の憲法だ」と訴えた。次に広島を2月24日に出発して翌日から幕張で始まる「9条世界会議」に向けて歩いている「ピースウォーク」の参加者が登壇し、大きな拍手を受けた。

党首スピーチでは社民党の福島みずほ党首が「憲法13条の幸福追求権を前面に掲げて政治を変えよう」とアピール、共産党の志位和夫委員長は「憲法を守るだけではなく、使い、生かす、攻めの運動を」と強調した。子どもパレードの参加者の唄に参加者が唱和した後、元気良く銀座パレードに出発した。

(事務局／国富建治)

報告◆ この状況で派兵恒久法になにもふれない「平和フォーラム」憲法集会 —— 学者と「現場」の矛盾が露呈

今年も「平和フォーラム」の5・3憲法集会(日本教育会館)をのぞいてみた。主催者発言は、解釈改憲によって進められている平和憲法の破壊への危機感を訴え、『読売新聞』や『朝日新聞』の世論調査の結果が示す改憲ムードの後退と自公政権の改憲へのトーン・ダウンという状況の好転をふまえ、憲法の理念を「いかす」あるいは「実現」する運動を、と一般的に訴えていた。しかし、解釈改憲の中心に浮上してきている「派兵恒久法」については一言もふれない。自民党とともに、内容に「対立」はあるものの、この法案づくりの基本線で合意してしまっている「民主党」への配慮か。メイン・スピーカーの政治学者山口二郎も、「ねじれ国会」などというマスコミ用語の使用はやめるべきで、いまの状況は決して否定的な「国会」状況ではないのだから、と元気に話したが、派兵恒久法問題には、やはりなにもふれなかった。そして一度でも政権交代すれば、民主主義は拡大し状況は決定的によくなるとくりかえした。この学者は、かつてこの「一度でも政権交代論」で、日本社会党の自衛隊容認論への転向を推進した人物の一人であった(その結果、社会党は解体してしまった)。この間の権力者たちの改憲を可能にする大状況をつくりだすことに正面から加担した人物である。その彼がどういう政権交代かという政治的内実を曖昧にして、またもや小沢一郎だけのみの政権交代論をぶってみせているのだ。派兵恒久法づくりは小沢のプ

ランでもある。彼が、この派兵国家日本を完成させる〈破憲〉法について、まったくやりすずくのは、あたりまえか。

ところが、こうした主催者側の学者発言とは、まったく別の、力強いアピールが闘争現場からは発せられていた。くりかえされる米軍の少女レイプへの強い怒りをぶつけて、米軍の撤退を要求し、日米安保の強化をはねのけ辺野古への新基地づくりと対決し続けることを訴える沖縄の「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」(高里鈴代)の発言。原子力空母の母港化を阻止するための住民投票を、あらためてよびかけた活動をレポートする、横須賀(神奈川)の「平和フォーラム」のメンバーの発言。具体的な闘いの中に身をおいた人たちの行動(思想)と、学者先生の論理(民主党を政権党への呼びかけ)との間には、かなりひらきがかった。現場の声は、「解釈改憲」状況と具体的に対決する動きを呼びかけていた。それは平和憲法を「いかす」活動をリアルに実践している人々の声であった。小沢民主党の顔色などをうかがう姿勢は、そこにはない。

毎年くりかえされているこの集まりが、基地・軍隊の問題を具体的にみすえている反改憲運動の声によって、壇上の学者(政党幹部)の曖昧な政治姿勢を吹きとばしてしまうようなものに、来年こそはなってもらいたいものだ。帰り道、切実にそう思った。

(天野恵一／事務局)

報告◆全国憲法研究会憲法記念講演会

(5月3日 一橋大学兼松講堂)

護憲の立場の憲法研究者で作る学会「全国憲法研究会」の恒例の講演会に今年も行ってみた。学会外のゲストスピーカーは政治学者の姜尚中氏、学会内部の講演者は東北大学教授の辻村みよ子会員であった。

姜氏は、「東北アジア・コモンハウスについて」という題目で、東北アジアに合衆国を加えて、安全保障と戦争を防ぐメカニズムを構築する構想について話をした。朝鮮戦争の恩恵にどっぷり浴しながら、頭の中でだけは戦争に関与していないと考えてきた日本の平和意識の矛盾を指摘し、それを乗り越えるための「リアル」な提案として、氏の東北アジア地域圏構想は提示されているようだ。何よりもまず朝鮮戦争を終わらせ、北朝鮮にまつわる様々の問題についても、多国間の枠組みにおける解決を追求すべきだと言う。米国による北朝鮮のテロ支援国家指定解除が可能性を増す中、日本の外交センスのなさ強く批判された。地域の安定にとって北朝鮮の核放棄が喫緊の課題であることは疑いを入れない。にもかかわらず、日本は別枠で解決されるべき拉致問題と核問題を同じ平面に置き、「拉致問題>核問題」と考えている。姜氏はこの態度に、日本国民の安全のために警鐘を鳴らす。とにかく東北アジアの多国間枠組みで問題にあたることが肝要で、憲法9条の出番もそうした東北アジア共同体の枠組みにおいてこそあるというのが氏の結論である。

辻村氏の話は、「ふたつの憲法観——21世紀の人権・家族・ジェンダー」という題目で、改憲論やその周辺の法政策論議を解説しながら、新たな憲法観・人権観と最近のジェンダーバックラッシュとの関係を解きほぐそうとするものであった。まず、憲法観については、近代立憲主義的立場と国家主義的立場の対立に加えて、共同体的憲法観なるものが現れている。人権観については、義務を増加させ、権利の保障を刑罰による強制によって確保しようとする人権観が、近代立憲主義的人権観に対立している。さらに家族観についても、個人主義的家族モデル対国家主義的家族モデルの対立に加えて、共同体的観点から第3のモデルが提示されているらしい。時間的制約もあって、つながりが明確に示されたわけではないが、こうした対立が、最近の男女共同参画推進とそれへのバックラッシュとの対立とも結びついているというのが辻村氏の指摘であった。政府の審議会に出入りする辻村氏ならではの、審議会メンバーのトンマな発言(人権意識の涵養のために学校に植物の種を配るとか……)の暴露などもあって、聴衆も楽しんでいただろう。

講演の内容は、学会の機関紙『憲法問題』に後に掲載されるはずである。辻村氏は講演の冒頭に、この講演会には右翼のみなさんが妨害にきて「下さった」時代があったと述懐していた。今は遠い昔である……。 (今井晶/事務局)

報告◆郡山からバス2台で9条世界会議に参加

9条世界会議に福島県郡山市発着のバス2台で参加することができた。参加者は総勢70名。小・中・高校生も参加した。朝8時集合で5時間かけて到着した幕張メッセには集まった人々があまりに多すぎて、結局会場には入れずじまい。ブースめぐりや急遽設定された青空集会への参加だけであった。けれども「会場に入れなかったのは残念だが、ゴールデンウィークのさなかに9条のためにこれだけ人が集まったことに感動した」と参加者は話していた。

このバスツアー実現のきっかけは、2月16～17日に東京で開かれた「第11回許さな! 憲法改悪・市民運動全国交流集会」という9条ブレ講演会に参加した「戦争への道を許さない郡山の集い」事務局メンバーの感想からだ。「アーサー・ビナードという詩人の話がよかった。9条世界会議に行くためのキャンペーン集会もぜひ開きたい。ビナードさんと連絡を取ろう」ということになった。

折しもイラク開戦からまる5年。「市民に呼びかける行動をやりたい」という声も上がっていた。3月初め実行委員会を持ち「3・30平和集会 9条世界会議に行こうキャンペーンキックオフ集会 アーサー・ビナード講演会&駅前ピースリレートーク」の取り組みを決定した。従来は声をかけたこともない団体を回ったり、仏教会の講演会にも出かけてチラシを撒くなど新たな取り組みにも挑戦。準備期間が短く、集

会に何人集まるかはわからず「出たとこ勝負」だった。3・30集会には杞憂も吹き飛ぶ270人が参加。当日券で80人が参加したことにも思わぬ「広がり」を感じさせられた。

アーサー・ビナードさんは「骨が語る——日米の真の共通点」との演題で、二大政党は民主主義の墓場、6人に1人は無保険のアメリカ医療の現実、食物を外国に依存する日本の“防衛”の滑稽さ、ミサイル防衛システムが本当は宇宙からのミサイル先制攻撃システムだなどと深刻な現実を分かりやすく、面白く話し、人間味、ユーモアを忘れずに「本当の名前」「言葉」を大切にすることの必要性を語った。実行委員会からは5月4日の郡山発着「9条世界会議バスツアー」の説明が行われた。

バスツアーは当初バス1台40人で行こうと募集したが、世界会議入場料1000円込みで6000円の格安ツアーでも60人を超えれば2台でもいけるということになり、最終的には70人となった。福島市や会津からの参加もあった。バスの中はそれぞれの憲法、9条への思いと運動の交流の場となった。会場には入れなかったけれど、世界会議の大成功を肌身で感じることもできた。この取り組みでできた貴重なつながりをもっと発展させたい。

(中路良一/戦争への道を許さない郡山の集い・事務局)

反改憲ニュースクリップ

08年4月20日～5月3日

61年目の憲法記念日

—— 1年前は昔日の如しか

【4月20日】〈世論調査〉朝日新聞の全国世論調査によると、福田内閣の支持率は25%で、3月の前回調査の31%を大きく下回り、内閣発足以来、最低だった。不支持率は60%（前回53%）。内閣支持率が20%台に落ち込んだのは、2007年7月に自民党が参院選で大敗した直後の調査で、安倍内閣の支持率が同内閣で最低の26%となって以来。内閣支持率を年代別にみると、70歳以上で前は支持46%、不支持34%だったのが、今回は支持36%、不支持50%と逆転している。

【4月22日】〈靖国参拝〉超党派の「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」（会長・島村宜伸元農水相）の62人が春季例大祭が開かれている東京・九段の靖国神社に参拝。閣僚はいなかったが、山谷えり子首相補佐官や内閣府の中川義雄、農水省の今村雅弘副大臣、5人の政務官が加わった。同会によると、党派別では衆院43人（自民38人、民主、国民新、新党大地各1人、無所属2人）、参院19人（自民16人、国民新2人、民主1人）。福田首相が参拝を見送っていることについて島村（会長）は、「人それぞれに考えがあり、立場や配慮もある。良い悪いではない」と述べた。

【4月25日】〈おもいやり予算〉在日米軍駐留経費の日本側負担（思いやり予算）を3年間延長する特別協定が憲法の衆院優越規定に基づき承認された。同日午前の参院本会議では民主、共産、社民の野党3党などの反対で不承認となり、承認した衆院との結論が異なるため両院協議会が開かれたが、意見が一致せず、衆院の決定を優先した。特別協定は条約扱い。現憲法下で条約案が不承認とされたのは衆参両院を通じ初めて。

【4月30日】〈怒りの夕張〉北海道の旧夕張市立病院を公設民営診療所として引き継いだ夕張医療センターの経営危機問題で、同市の前病院経営アドバイザー、伊関友伸・城西大准教授が記者会見し、「センターは黒字経営の医療をしているのに、老朽施設の維持費で資金不足に陥っている。財政破綻の市に代わって地域医療を守るべき道の責任は大きい」と述べ、トップの高橋はるみ知事の責任に言及しながら厳しく批判。同席した同センター長の村上智彦医師も、市側がセンターの「経営努力の必要性」を指摘したことに対して「訂正しないなら、我々はここを立ち去るつもりだ」と怒りをあらわにした。〈世論調査〉朝日新聞社が実施した全国緊急世論調査によると、福田内閣の支持率は20%で、発足以来最低だった前回の25%からさらに下落した。不支持は59%（前回60%）だった。政党支持率でも自民が24%（同26%）、民主が28%（同22%）と逆転した。民主が自民を上回るのは、安倍内閣時代

だった参院選後の昨年8月以来だ。「いま投票するとしたら」として聞いた衆院選比例区の投票先でも、民主が39%で自民の22%に大差をつけた。今年2月の時点では、投票先は民主32%、自民30%で接近していた。民主は弱いとされてきた女性の支持が増えている。福田首相の問責決議案の参院提出を検討している民主党の姿勢を「評価する」は42%、「評価しない」は40%。問責決議案が可決された場合に福田首相はどうするべきかについては、「衆院を解散して総選挙をする」が60%で多数を占めた。「辞職も解散もする必要はない」は25%、「辞職するべきだ」は9%だった。

【5月1日】〈新憲法制定推進大会〉憲法「改正」を目指す「新憲法制定議員同盟」（会長・中曽根康弘元首相）が永田町の憲政記念館で新憲法制定推進大会を開いた。中曽根、海部俊樹、安倍晋三の各元首相や与野党、経済団体の代表などが出席し、衆参両院に形式上設置されながら委員選任も進んでいない「憲法審査会」の早期始動を求める大会決議を採択。中曽根は「今の憲法体制では日本の地位が低下していく。日本をもう一度上昇気流に乗せて、先進一流国家として存続させるのがわれわれの目的だ」と強調。自民党の伊吹文明幹事長は「わが党の立党精神は憲法改正。期待されている国際的な義務があり、環境など、かつて気づかなかった価値観を思い起こす余裕も出てきた」と、憲法改正の必要性を訴えた。

【5月3日】〈憲法記念日〉護憲派の市民団体は「5・3憲法集会」を千代田区で開催。元米陸軍大佐でブッシュ政権のイラク攻撃に反対し、外交官を辞職したアン・ライト氏が「憲法9条は保持すべき理想。イラク戦争への協力に反対し、核兵器拡散を阻止する活動をしてほしい」と訴えた。社民党の福島瑞穂党首は、航空自衛隊のイラクでの輸送活動を違憲と判断した4月の名古屋高裁判決を評価し、「自衛隊の海外派兵恒久法案の息の根を止めるため頑張ろう」と述べた。集会には約4,300人（主催者発表）が参加した。一方、改憲派が新宿区で開催した「新しい憲法をつくる国民大会」には約500人（同）が参加。自民党憲法審議会会長代理の船田元衆院議員は、名古屋高裁判決について「重く受け止めなければいけない。現在の9条下での国際活動には制限があり、改正しなければ、自衛隊が海外で安心して活動できない」と述べた。小池百合子元防衛相は「国際平和支援は世界から求められている分野であり、憲法改正に真正面から取り組む必要がある」と訴えた。一方、民主党の山岡賢次国会対策委員長は3日、那覇市内で、憲法審査会が一度も開かれていないことについて、「今そういう雰囲気ではない。内閣支持率を見ても、内閣の体をなしていない。安定した環境が整った時に論議は行われるべきだ」と記者団に語った。共産党の志位委員長と社民党の福島党首は都内で開かれた集会に出席。志位氏は「読売新聞の世論調査で改憲反対が賛成を15年ぶりに上回った。憲法を守り、生かそう」と強調。福島氏は「福田首相と小沢民主党代表の大連立協議が自衛隊海外派遣の恒久法をめぐる行われたことに危機感を感じる。憲法審査会は形式的に設置されているが、始動させないために頑張る」と述べた。

私も一言 64

平井 玄 (音楽批評)

進行中の「神聖喜劇」

栃木県のコンビニ・フリーター赤木智弘くんは相かわらず「戦争」を待望しているらしい。正社員がたくさん死ねばいい。でも自分が死ぬのはイヤで、ヒモでも何でも生活が安定すればいい。音が飛ぶCDみたいに支離滅裂な一人言の繰り返した。話す機会があって、大笑いしたくなるのをガマンするのに苦労した。ボケたギャグに聞こえる。ベケツカ、別役実を再演する坂手洋二に芝居にしてもらいたい。1930年代、大転向後の元共産党員・秋田実が大阪道頓堀で現代漫才

の原型を創り出したように、この時代を新たな「喜劇」として生きるエスプリが必要である。

一方で、「右だとか左だとかはもはや対立軸たりえない。そういった『わかりやすい物語』への依存をどう捉えるかという、『世の中との距離の取り方』こそが対立軸じゃないか」と、ミニコミ誌を主宰する会社員・宇野常寛さんは叫ぶ。いやはや30歳なのに懐かしい歌を。こんな言い方は60年代でさえありふれた説教だった。ミソは「依存」という心理学めいた超越論的俯瞰だが、これも耳タコ。そんな懐メロを新曲として歌う倒錯ネタではお笑い芸人として生き残れないだろう。

貧困をエンジンとするグローバル化の下で戦争国家とどう闘うのか、という問いはそれほど「わかりやすい物語」ではない。「わかりやすく」したい単純護憲派もいるが、資本と国家へのこうした「長い問い」とともに笑いながら改憲の動きに抗いたい。若い2人の拙い芸を取り上げたのは朝日新聞社『論座』。そういう「神聖喜劇」が今進行している。

集会・行動情報 5/17~6/7

▶5/17(土)「海外派兵恒久法」と憲法◆飯島滋明(名古屋学院大学)◆18:30~◆文京区民センター3C会議室(地下鉄春日駅すぐ)◆800円◆主:許すな! 憲法改悪・市民連絡会(03-3221-4668)

■改憲阻止の統一戦線をめざして——9条と25条をむすぶ闘い◆栗原君子(元参議院議員)◆18:30~◆本郷文化フォーラム(地下鉄丸の内線ほか本郷三丁目駅下車徒歩5分)◆1500円◆主:HOWS(03-5804-1656)

▶5/21(水)国民投票法体制を撃つ! 5・21集会◆加藤晋介(弁護士)、神田香織(講師)◆18:30~◆文京区民センター◆500円◆主:国民投票法体制を撃つ! 5・21集会実行委員会(03-5802-3809)

▶5/24(土)サミット警備にNO! 戦争協力を許さない! 5・24集会◆石橋新一(有事立法・治安弾圧を許すな! 北部実行委員会)、藤田五郎(荒川・墨田・山谷実行委員会)、林克明(ジャーナリスト)、杉原浩司(核とミサイル防衛にNO! キャンペーン)◆18:00~◆豊島勤労福祉会館(池袋駅西口徒歩10分)◆500円◆主:戦争協力させない東京ネットワーク(090-5208-5105 ほか)

▶5/25(日)湾岸戦争帰還兵による講演「真実を聞いてくれ 俺は劣化ウランを見てしまった」◆デニス・カイン(元米軍第18空挺部隊員)◆14:00~◆京都市下京区メルパルク京都5階◆主:同実行委員会・京都民医連(075-314-5011)

■STOP G8! アフリカ開発会議(横浜: 5月28~30日)って何だ?! 5・25デモと集会◆デモ:桜木町駅前広

場(JR桜木町駅下車/ランドマークタワーへ向かうエスカレーター前あたり)14:30 集合/15:00 出発◆集会:かながわ県民センター402(横浜駅西口5分)17:30~/500円/お話:トレバリー・ングワネ(南アフリカ在住、ソエト電気危機委員会[SECC])◆主:横浜でG8とTICADを考える会(090-3909-9657)

■第21回 反基地駅伝大会◆10:00~◆立川市砂川支所南側広場(砂川秋まつり広場/立川駅北口バスターミナルより、天王橋、箱根ヶ崎、拝島行き[「砂川4番」停留所下車]または大山循環[「砂川支所入り口」停留所下車]。所要時間20分)◆1000円◆雨天時は11:00から公民館で交流会◆同駅伝実行委員会(042-575-5412 河野 ほか)

▶5/27(火)イラク戦争を考える連続講座~外注される戦争——民間軍事会社の正体を知る◆菅原出(国際政治アナリスト)◆19:00~◆世田谷区烏山区民センター3階・第7会議室(京王線千歳烏山駅下車)◆800円◆主:今とこれからを考える一滴の会(03-5313-1525)

▶5/30(金)憲法改悪を許さない! 国鉄闘争勝利をめざす西部連絡会5・30集会デモ◆18:30~◆宮下公園(JR渋谷駅下車徒歩5分、明治通り沿い)◆主:憲法・教育基本法改悪反対! 国鉄闘争勝利をめざす西部連絡会(03-3460-0058)

▶6/7(土)G8だヨ! 連続学習会(第1回)G8は平和に貢献するか◆越田清和(G8サミット市民フォーラム北海道事務局)◆18:30~◆名古屋市女性会館 視聴覚室◆800円◆主:不戦へのネットワーク(052-731-7517)

事務局から~

◆『「反改憲」運動通信』(第3期)最終号です。今期の定期購読費のお支払いがまだの方はお早めに。次号からの第4期の定期購読も、ぜひお願いします!

◆本紙事務局(事務所)にはスタッフが常駐していません。事務局への連絡や購読申込み等はファクシミリか電子メール、お葉書が確実です。